

【1 アンケート項目について】

大学のガバナンスに基づき、附属4校園共通項目として、5項目の内容に沿ったアンケートを実施しました。

- ① 授業改善・児童生徒理解（アンケート質問：3・4・5）
- ② 教育研究・小中高一貫教育（アンケート質問：15・16）
- ③ 教師教育・教員研修（アンケート質問：6・7）
- ④ →保護者・地域等連携（アンケート質問：8・9・10・11）
- ⑤ 環境整備・安全管理・業務改善（アンケート質問：1・2・12・13・14）

アンケート結果は、次のように評価しています。

・「そう思う」「だいたいそう思う」：**プラス評価** ・「あまりそう思わない」「全くそう思わない」：**マイナス評価**

【2 保護者アンケートの集計結果の分析】

アンケート項目16問中13問において、プラス評価90%という高評価をいただいております。日頃から教育活動へのご理解とご協力をありがとうございます。「先生をモデルにしているから子どもたちが友達に優しい」「特性に合わせた対応や学びの環境を適切に配慮してくれているので、目に見えて成長を実感」「昨年より出前授業や交流の回数が増えていることが SNS から分かる」「防災への迅速な対応に感謝」「学校がいいように変わっていているのを感じる」「誠実な対応、ともに成長を喜んでくれる先生、信頼できる」等、教職員にとって励みとなる温かいお言葉やご回答を多数いただいております。保護者の皆様方には、感謝の思いでいっぱいです。

プラス評価90%未満の項目について

プラス評価が90%未満の項目は「(14) PTA 活動の働き方改革と充実」「(15)「家庭での生活習慣」」「(16)「家庭での年齢に応じた関わり方」の3項目です。

質問(14)では、74%(約41名/55名中)の方が PTA 活動の負担軽減を実感しておられ、活動のスリム化・効率化が図られていることが分かります。全員役員制から、ご家庭のライフスタイルの変化に伴い、学年代表制による選出に変わっていることや、働きながらも役員をお引き受けいただけるよう、行事等での来校の機会に行える業務を設定していることが大きいと思われます。反面、「以前のような縦のつながりが薄くなって残念」というご意見も多数いただきました。業務量とのバランスを考えながら、PTA 新役員とともに PTA 行事内容の工夫を考えてまいります。また、時代の流れを考えますと、以前と同様の縦のつながりを PTA 活動だけで深めていくことは難しい現状にはあるのかもしれませんが、任意の活動となりますが、「岡山市手をつなぐ育成会」は、本校卒業の先輩保護者が立ち上げに深く関わり、我が子のみならず県内の障害のあるお子様とご家族を支えています。また、本校同窓会は、年間3~4回集まって和気藹々と情報交換ができる場になっています。本校の保護者同士のつながりはそういったところからも得られそうです。

質問(15)(16)は、プラス評価が80%以上(44名以上)と高評価ですが、「そう思う」回答を「だいたいそう思う」回答が3倍前後も上回り、かつ、マイナス評価は10%以上(6名以上)という他の項目と異なる傾向がみられます。これは、保護者の皆様はやや辛口の自己評価を付けられたということ、家庭教育での課題意識の高さ(生活リズムや生活習慣形成等)やお子様の成長への期待の表れであろうと分析しています。ご家庭でしか取り組めないこともありますが、必要な支援や指導のステップ等、一緒に考えていけることも少なくないと思います。遠慮なくご相談ください。

今年度、改善が求められていた項目について

昨年度のアンケートから今年度改善が求められていた項目は、「(6)教師の人権意識」「(7)教師の専門性」「(9)情報発信」「(12)安全への留意と防災への取組」の4項目でした。

いずれも90%以上のプラス評価となり、改善が見られます。校内ルールの徹底や Instagram の開設、防災かばん等、新しい取組についての肯定的な回答を多くいただいております。反面、「もう少し説明がほしかった」「我が子に合うか心配がある」等、戸惑いの声もお聞きしています。今後は、新しく取り組む事柄や変更事項については、年度初めの学級懇談や学部懇談、PTA 総会等において、丁寧な説明を計画的に行うよう心掛けてまいります。また、防災の取組については、より実情に合わせた見直しや改善を新 PTA 役員と一緒に行ってまいります。

【3 教職員アンケートの集計結果の分析】

18問中12問において、プラス評価が90%以上。教職員は、よりよい授業や学級づくり、丁寧な対応、安全への配慮等を意識し、努力をしています。また、多忙な中でも高い同僚性で支え合っていることは、本校教職員集団の強みです。

次年度重点課題として取り組む項目について

プラス評価80%以上にもかかわらず、15%以上でマイナス評価の見られた項目は、「(2) 分かりやすい教室環境」「(16) 12年間の連続性有る指導」の2項目です。一定数の教員が改善の必要を感じている項目と考えます。(2)に関しては、児童生徒の学びやすさを優先し、必要な資格支援の継続や茂樹量の調整など、各部で再確認をしております。(16)に関しては、特別活動を中心として、キャリア教育の視点をもった12年間の連続性・発展性を明確化しながら指導するよう改善していきます。発達段階に合わせた学習計画や取組の意図を共有することで、家庭でのキャリア発達支援にもつなげていけるものと考えます。

「(14) 働き方改革」については、保護者の皆様にもご心配をおかけしております。「休日も遅くまで電気がついている」「結果、我が子に返ってくるものが大きいと思うから、協力していきたい」などの声もいただいております。67%(19名)の教職員が、働き方改革が進んでいると実感があるものの、依然として県立特別支援学校及び他県の国立大学附属特別支援学校と比較して長時間勤務の実態が続いています。33%(9名)の教職員がマイナス評価となっている状況も鑑み、休憩時間の確保や授業準備・研修時間の確保、会議の精選や効率化、校務DX化の推進等、更なる工夫と働きやすさへの対応が必要であると考えます。子どもたちの成長につながる「よりよい授業づくりのための準備時間」や教員の指導力・専門力向上のための「研修・研究の時間」は削減することはできません。「学級通信の発行回数」「卒業アルバムの教員作成の廃止」については、「写真のインターネット販売」「SNSでの情報発信」「卒業に向けた学習活動での成長の足跡」をもって代替させていただけますよう、重ねてお願い申し上げます。

※「(10) 外部人材を活用した学習」「(11) 組織的な生徒指導」は、プラス評価が90%以下。(10)では「学校全体では行っているが自分の授業では行っていない」という複数回答があり、発問の改善が必要です。(11)は、「校内支援委員会・いじめ防止等対応委員会」の取組や外部機関との連携について、必要な情報の部会等での共有に努めます。

【4 保護者からのご意見】

建設的なご意見やご要望をありがとうございました。全体に関わる項目についてご回答いたします。

① スクールバスの利用(中学部でも利用させてほしい/自力通学につながるために座席指定を廃止してほしい)

ご対応をありがとうございます。入学前説明のとおり、県立校と異なり、教育課程上小学部の始業と終業時刻に合わせた運行になりますので、小学部のみの利用としています。スクールバスの増便や始業時刻変更は難しい現状にあります。ご苦勞をお掛けし、申し訳ありませんが、引き続きご対応の程、お願いいたします。また、スクールバスは学校責任下で運行するバスとなりますので、児童の安全・安心、スムーズな運行のため、シートベルト着用と座席指定は必須としております。自力通学に向けた取組は、ご家庭で路線バスでの継続練習が必要になろうかと思えます。その際はご相談ください。

② 研究発表会について(保護者も参加させてほしい。我が子対象の研究は保護者へのフィードバックが必要では)

研究活動へのご理解、ご協力、ご対応に感謝申し上げます。本校は、国立大学附属校として、先進的で質の高い教育実践を研究し、特別支援教育の課題解決や県内外の教職員の専門性向上に寄与していく使命のある学校です。教育実践研究ですので、全校児童生徒が対象であり、開発された指導法や授業等は教育活動を通じて、子どもたちに還元してまいります。研究発表会は、教育関係者対象の内容ですので、保護者参観はできませんが、平日の参観はいつでも可能です。授業の様子を見に来てください。研究紀要はHPで公開していますのでご覧いただけますと幸いです。

③ 開かれた学校、教育課程について(参観週間や給食参観の復活を・高等部でも国語/数学の勉強をしてほしい)

特に参観週間としての設定はしていませんが、参観日以外の日でも授業の様子を見ていただくことはできますので、ご参観にいらしてください。ご希望日時や授業を担当にお知らせください(前日までにご連絡いただけましたら、校外に出る授業の時間帯や移動教室場所をお知らせできます)。

教科学習についてですが、学習指導要領に示された教科の指導内容は、どの学部も確実に取り扱っていますのでご安心ください。計算等の反復練習をすることもありますが、多くの場合は、子どもたちの学びやすさに合わせて、具体的な体験活動の中で、生活に必要な知識(お金や時間、長さや計算等)を身に付けられるような指導の形態を取っています。